

国際政治 I レポート課題【2024 年度】

担当 村主道美

締め切り：2024 年 8 月 9 日午後 4 時

提出場所：東 2 号館 8 F の法学部共同研究室前のレポートボックス

長さ：特に指定しないが、標準として A 4 で 5 枚程度

下記の中からひとつを選んで論じなさい。

(1) 2023 年 10 月 7 日以後の連続した 1-2 か月を選び、ひとつのイスラエルの新聞（例えば Times of Israel）と、ひとつのイスラエル以外の新聞（例えば朝日新聞、Ahlam Online（エジプト）、People's Daily（中国））のガザ報道を比べ、その報道内容がどのように異なるか、あるいは一致するか—そしてそれらの考えうる理由を論じなさい。

(2) Youtube [In Praise of Blood - The Crimes of the Rwandan Patriotic Front - A Must Read Book By Judi Rever](#) 及び [Rwanda's Untold Story Documentary on Vimeo](#) を見て、どのような視点から、歴史が再解釈されつつあるかを論じなさい

(3) ネット上にある、ロヒンギャと日本についての次の論文を読み、さらに自分でそれに何等かの意味で関連する（ミャンマーに関連するものでも、そうではないものでもよい）と思われる何か別の論文を探して読み、＜事実の解釈は国家によりどう利用されるか＞を論じなさい “The Exceptionality of the Powerless and the Banality of Power”
<https://forsea.co/the-exceptionality-of-the-powerless-and-the-banality-of-power-japans-rohingya-community-and-the-japanese-state/>

(4) 授業で紹介したネット上にある Al Jazeera の Nakba (Episode 1-3) を再び視聴し、新たに ICJ で南アフリカにイスラエルが訴えられた Youtube の South Africa levels accusations of ‘genocidal conduct’ against Israel at UN Int'l Court of Justice をも視聴し、関連箇所を具体的に示しながら、そこで述べられていることは、ガザについての 7 月の岡真理先生の講演の内容とどのように関連するか、を論じなさい。

国際政治 I 筆記試験問題【2024 年度】

担当 村主道美

下記の全ての質問に答えなさい。

1 Narrative

「アフリカ中部の小国ルワンダにおいては、民主化がせっかくある程度進み、フツとツチとが権力共有（Power-sharing）して新政権を作る合意ができていたのに、1994 年 4 月の、フツである大統領が搭乗していた大統領専用機が何者かにより撃墜されて大統領が死亡した事件を契機にフツのツチに対する Genocide が始まり、100 万人ほどが死亡したとされ、その後内戦に勝利した RPF が国家再建の政治的・経済的役割を担った。」

- (1) クラスでの講義や討論を踏まえ、上記の説明以外とは相当異なる説明方法をこの同じ時期のルワンダについて編み出してみよ。その説明には特に次のようなことを折り込んでほしい（昔からフツとツチは「部族闘争」を繰り返していたか。ツチとフツの内戦はどのような理由からいつ、始まったか。そのツチとフツの関係は、両者の権力共有（Power-sharing）や民主化の問題とどう絡んでくるか。殺したのは、殺されたのは、誰か。内戦が終了した後のザイルを含む中部アフリカにはどのような問題が残っただろうか。
- (2) 上記の問題に関する、クラスで取り扱った BBC の {Rwanda: Untold Story} は、現代史を扱うときのどのような難しさを示しているだろうか。

2 安全保障

- (1) 防衛と攻撃のバランスにおいて、蛇、亀、ウニ、毒が無いのにけばけばしいキノコ、そして毒のあるフグ、はそれぞれ、どのような状態の国家その他のアクターと似ているか。
- (2) 抑止（deterrence）と強制（compellence）はどう違うか。例を示して説明せよ。
- (3) 抑止力に関連する次の概念を簡単に説明し、それぞれカッコ内の問題にも答えながら、ひとつずつ例を示せ。
 - (ア) 言っていることの credibility （これを強めるにはどんなことが必要か）
 - (イ) 耐えられない損害 （アクターによってこの程度は異なるだろうか？）
 - (ウ) 敵から第一撃を受ける時の、自軍の兵器の残存可能性（どうすればこれが強まる

か?)

- (4) 延長された抑止 (Extended Deterrence) により保護されている国家が、「虎の威を借る狐」にならないためには、どのような条件が必要だろうか。できるだけ例を示しながら論じなさい。

3 国民国家と（南アフリカに似た）「アパルトヘイト」

イスラエルとミャンマー（ビルマ）を比較するとき、国民国家がどのように形成されるかという観点からは、どのような類似点があり、どのような相違点があるかを、論じなさい。特に次のような点にはできるだけ触れるように。

- (1) これら2つの事例において、ナショナリズムが発達するとき、人々はどこにいるのか。
- (2) これら2つの事例において、ナその国家の成立は「植民地主義」とどう関係しているか。
- (3) これら2つの事例において、ナ民主主義になっても、なぜ少数民族を含む国民平等が実現されないのか。
- (4) イスラエルとミャンマーが現在友好関係を持っているのは、それぞれの国内の主要な集団がそこに出現した経緯を考えると、かなり変である。シオニズムでできたイスラエルと、仏教徒中心主義でできたミャンマーとは、本当なら、友達にはなれないはずではないか。

無論、これ以外の重要と思われる点にも触れること